



6月の予定

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	7/1	7/2

※蔵書点検のため全館休館 6月27日(月)～7月4日(月)

ぐりぐらタイム (絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介) 第1・3金曜日

11:00～11:15 6ヶ月～1歳 (保護者同伴)

11:20～11:40 2・3歳～ (保護者同伴)

第2・4火曜日 16:00～16:30 3歳～小学生

かにかにこそそそ (昔話などを覚えて語る練習会)

第3水曜日 10:00～12:00 大人対象

♥としょかん・くらぶ

第4土曜日 会員制

10:10～11:00 1・2年生 35名

11:10～12:00 3～6年生 50名

※本の読み聞かせとブックトークで本に親しみます。

★おはなしはじめのいっばー 当日参加ー
 ～覚えてみたい楽しいお話がいっばー～
 (小さいお話(語り)、手遊び、わらべうた)

11:00～11:30 語りに興味のある方、聞くだけの方、どなたでも(赤ちゃん連れOK)

☆読み聞かせボランティア講座・初級編 (3回講座) 申込制 10:00～12:00

①選び方 ②読み方の実際 定員25名

○ブックスタート (4か月児健診時に、保健センターにて)

○ブックスタートプラス (2歳児歯科健診のあと、図書館にて)

〈竹間沢分館〉

ぐりぐらタイム (絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)

6月は第3火曜日

11:00～11:30 6か月～3歳 (保護者同伴)

◆スイミーおはなし会 (絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)

第4木曜日 16:00～16:30 4歳～小学生

【地域文庫のお知らせ】

(児童書の貸出、お話し会など。)

つくし文庫・6月18日(土)、10:00～12:00
 場所/上富1区第1集会所にて

あらた文庫・毎火曜日 15:30～18:00
 場所/荒田自宅にて

(藤久保536-4 三芳東中学校近く)

【一般書】『橋をかけるー子供時代の読書の思い出ー』
 美智子(著)
 すえもりブックス
 1998年11月初版発行
 請求記号 一般Q0199
 「子供の本を通しての平和」をテーマに開かれたIBBY世界大会でなされた、美智子皇后の講演録。本で知った美しき、本から感じた不安、喜びなどを語る。日本語、英語の完全収録版。



【一般書】『読み聞かせわくわくハンドブックー学校から家庭までー』
 代田知子 著 一声社
 2001年4月初版発行
 請求記号 一般Q0199
 「読み聞かせ」のハウ・トゥ・ブック。読み聞かせの魅力とそのパワーについて、本選び、読み方、読み聞かせの会を成功させるちょっとしたコツなどを紹介。おすすめ絵本リストも掲載。



【一般書】『えほんのせかい 子どものせかい』
 松岡亨子 著
 日本エディタースクール出版部
 1987年9月初版発行
 請求記号 一般Q0199マ
 子どもになぜ絵本が必要なのか。どんなふうに読んでやるのがいいのか。子どもの「読み」と、大人の配慮について丁寧に説く。「子どもに本を読む喜びを」と願う大人の出发点となる一冊。



【一般書】『読み聞かせーこの素晴らしい世界ー』
 ジム・トレリス 著 亀井よし子 訳
 高文研 1987年12月初版発行
 請求記号 一般Q0199ト
 子どもの本離れをどうするか。テレビ漬け、どう打ち勝つか。著者いわく「建国以来の教育危機」の一九八五年アメリカで出版され、親や教師の間で旋風を巻き起こしたベストセラーの改訂版。

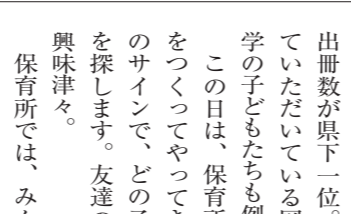


町の図書館は、人口一人当たりの貸出冊数が県下一位。多くの方に利用していただいている図書館ですが、未就学の子どもたちも例外ではありません。この日は、保育所の子どもたちが列をつかってやってきました。先生からのサインで、どの子も目を輝かせて本を探します。友達の間でいる本にも興味津々。



保育所では、みんなで本を借り、使ったり、お家で読んでもらう機会づくりとしたりしているそうです。小さいころからの読書習慣は、感性や創造力を豊かなものにし、表現力を高めるのに効果的とされています。図書館では、乳幼児向けのイベントも多く開催しています。ぜひ図書館へお出かけください！

小さいころから本に触れる
 町の図書館は、人口一人当たりの貸出冊数が県下一位。多くの方に利用していただいている図書館ですが、未就学の子どもたちも例外ではありません。この日は、保育所の子どもたちが列をつかってやってきました。先生からのサインで、どの子も目を輝かせて本を探します。友達の間でいる本にも興味津々。



図書館の本棚「読み聞かせ」の参考図書 別置紹介中

町立小学校では「学校応援団」が組織され、活動を続けています。教育活動の様々な場面で、保護者や地域の方が、子どもたちのために力を貸してくれています。各種行事におけるお手伝い、花壇に花を植えたり雑草を取り除いたりする環境整備、子どもたちの登下校時の安全確保等々、その活動は多岐にわたっています。この日の話は「ソメコとオニ」いざ、話が始まると子どもたちの目は読み手の方に釘付けです。それもそのはず、登場人物に合わせて声色を変え、あたかも登場人物同士が会話をしているかのように、とても上手に読み聞かせてくれるからです。笑ったり、怒ったり、泣いたり、驚いたり、どきどきしたり、はらはらしたりといったの間に自分が主人公になって話の世界で想像をふくらませます。話が終ると感動した子どもたちから割れんばかりの拍手が鳴り響きます。この感動が心を耕し、自発的な読書活動を促す原動力となるわけですね。

読み聞かせをすることは、子どもたちにによりよい読書習慣を身につける第一歩となります。学校応援団の方と連携を取り合いながら、計画的に読み聞かせ活動を続けることで、よい読書習慣を身につけた心豊かな大人へと成長していくことができます。



地域のほうが自分の得意分野を生かして、読み聞かせや英語活動、算数、家庭科など、豊かな教育活動のためのお手伝いをしてくれています。唐沢小学校では、毎週水曜日に朝読書を行っています。この時間を活用して1クラスずつ順番で行われている読み聞かせの様子を紹介します。4月13日、学年活動室に集まった6年1組の子どもたちは、首を長くして話が始まるのを待っています。この日の話は「ソメコとオニ」いざ、話が始まると子どもたちの目は読み手の方に釘付けです。それもそのはず、登場人物に合わせて声色を変え、あたかも登場人物同士が会話をしているかのように、とても上手に読み聞かせてくれるからです。笑ったり、怒ったり、泣いたり、驚いたり、どきどきしたり、はらはらしたりといったの間に自分が主人公になって話の世界で想像をふくらませます。話が終ると感動した子どもたちから割れんばかりの拍手が鳴り響きます。この感動が心を耕し、自発的な読書活動を促す原動力となるわけですね。

「活躍する学校応援団」
 ー読み聞かせ活動のひとつまー
教育トピックス

みよし歴史探訪 文化財を訪ねて
 第三回 富士信仰と富士塚

三芳町の地図を広げると、藤久保の小さな字に「富士塚」という地名があります。二つの字が接する富士見市境付近に、浅間神社を祀る塚があり、また、上富八軒家にも、「富士山」と呼ばれる高さ五メートルほどの塚が存在します。これらは、一般に「富士塚」と呼ばれる富士山を模して人工的に築かれた小山です。かつて藤久保の富士塚は、高さが十五メートルほどで、頂に数坪の社があり、周辺からは清水が湧き、樹木がうっそうと茂っていたといわれています。

富士山は、その姿や大きさから、古来より信仰の対象となってきました。近世の山岳信仰は、修験者(しゆげんしゃ)の行を中心とするものから、一般人が自由に登拝できるようになったことで、代参講である富士講(富士山を信仰する人の集団)が流行し、各地で結講されました。三芳でも、竹間沢・藤久保・上北永井・下北永井・上富八軒家に富士講があったことが確認されています。

しかし、誰でも登拝できるようにになったとはいえ、実際に富士登山に行けるのは、財力と体力のある人のみでした。そこで、富士登拝できない老若男女が富士塚に登拝することで、富士登山と同じ御利益を受けられるようになったといわれています。

北永井には、富士塚こそ築かれていませんが、北永井の富士講の先達(指導者)は、明治三十五年(一八九二)、六七歳にして富士登山三十三度という偉業を遂げ、大先達としての階位を得、その成就の記念に講中によって建立された富士登山三十三度之碑が屋敷地内に現存しています。旧暦六月一日(新暦で今年七月一日)は富士山の山開き。本格的な富士登山とまでは行かずとも、三芳の富士塚を巡ってみてはいかがですか。

